

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益社団法人日本舞踊協会
公演団体名	公益社団法人日本舞踊協会

内容
<p>【浴衣<small>ゆかた</small>を着て<small>ま</small>日本舞踊<small>にほんぶよう</small>を踊ろう！<small>おど</small>】</p> <ul style="list-style-type: none">●浴衣を着て、正座、お辞儀、立ち座りなどの日本舞踊の基礎的な所作(動き)を学ぼう！●役になりきって生演奏で踊ろう！ <p>(使用曲:「風神雷神」 作曲:渡部進 作調:藤舎呂風 制作:公益社団法人日本舞踊協会)</p> <p>日本舞踊は踊りや音楽などさまざまな要素で成り立っている芸能です。実際に浴衣を着て、所作を体験することで、現代ではなかなか学ぶことのできない日本人ならではの所作の美しさを発見してもらいます。体験はお囃子の生演奏で行うことで、音に合わせて踊る楽しさや音の魅力を体感してもらいます。</p> <p>※実施に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策等を踏まえて、各学校と相談しながら内容を調整させていただきたく存じます。</p>

タイムスケジュール (標準)
<p>全 110 分程度(授業 2 コマ分+休憩時間)</p> <p>浴衣の着付け (約 20~30 分) ~ 所作・踊り指導(休憩を含め 約 90~80 分)</p> <p>※所要時間に不都合がある場合は、プログラム内容を短縮、実施時間を放課後や早朝の時間に設定するなど臨機応変に対応いたします。</p>

派遣者数
合計 6 名 (舞踊家・演奏家・スタッフ)

学校における事前指導
実技が中心のプログラムですが、ご要望に応じて質疑応答や給食時間等を利用した懇親タイム等を設定するなど柔軟に対応いたします。保護者や地域の方々の観覧も歓迎いたします。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	公益社団法人日本舞踊協会
公演団体名	公益社団法人日本舞踊協会

演目
「ひらけ！ ^{にほんぶよう} 日本舞踊のとびら」 鑑賞演目： 常磐津 ^{とぎわづ} 「京人形 ^{きょうにんぎょう} 」ほか

派遣者数
出演者：20名 スタッフ：21名 合計：41名

タイムスケジュール（標準）
8時頃：学校到着～搬入（～8:40頃）・仕込（所要時間約3時間）／11時半：リハーサル 本番前に安全確認（舞台設備・照明等の安全を先生と確認） 13時15分頃：児童・生徒入場／13時半：開演／15時20分頃：終演 ～17時頃 搬出・撤収

実施校への協力依頼人員
搬入・搬出時の運搬人員 約～20名 （※可能な範囲でご協力をお願いいたします。作業時は、スタッフが危険のないよう指導します。） *中学校では生徒さんの協力を歓迎します。小学校は教職員・PTAの方をお願いします。

演目解説
<p>「ひらけ！^{にほんぶよう}日本舞踊のとびら」 （プログラム構成・演出・振付・脚本：（公社）日本舞踊協会学校公演委員会） “みる・きく・おどる”をキーワードに日本の伝統芸能である日本舞踊を楽しく体験しながら、学んでもらうプログラムです。初めに、出演者が舞台に勢揃いし、生演奏に合わせて華やかな踊りを披露！ご挨拶（口上）からプログラムがスタートします。</p> <p>[1] 「みる」 部屋 日本舞踊とはどんなもの？みんなで日本舞踊家の踊りを見てみよう！ “立ち・座り・拍子を踏む”などの日本舞踊の基本的な所作（動き）を全員で体験します。</p> <p>[2] 「きく」 部屋 日本舞踊の伴奏音楽である常磐津（語り、三味線）、鳴物（小鼓、大鼓、締太鼓、笛など）について学ぼう！邦楽器の特色や音色の魅力を演奏や踊りの実演を通して発見してもらいます。</p>

《鑑賞演目》…常磐津「京人形（きょうにんぎょう）」

江戸時代後期に初演され、今もなお親しまれている踊りです。

憧れの女性にそっくりの人形（京人形）をつくった甚五郎。真心をこめてつくったその京人形があるきっかけで動き出す、という楽しい演目です。鑑賞の前後には、踊りの内容や見どころを実演も交えながら分かりやすく解説。

[3] 「おどる」 部屋

大切な小道具である「お扇子」を使って、四季の風物の表現を体験！
生演奏に合わせて全員で日本舞踊を踊ります。

《鑑賞コーナー》…日本舞踊家7名と演奏家10名による群舞

最後には、この公演で学んだ様々な日本舞踊の要素を盛り込んだオムニバス作品を鑑賞します。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 初めて触れる日本舞踊を楽しく学び体験してもらえるよう司会者と一緒に、日本舞踊のとびら（【みる部屋・きく部屋・おどる部屋】）を開いていくという演出で行います。
- 【みる部屋・きく部屋・おどる部屋】の各場面、実演と体験を交えながら進行します。司会進行役が、出演者（実演を披露・解説や体験のレクチャー役）に質問を投げかけ、子供たちと一緒に学んでいくという趣向で展開していきます。
- 「おどる部屋」体験コーナーでは、1人ずつに扇子を配布して、日本舞踊の表現や踊りを学びます。
- 鑑賞コーナーでは、初めて日本舞踊に触れる方にも視覚的・内容的に楽しく、日本舞踊の表現の多彩さを感じてもらえるような作品を上演。最後に鑑賞する群舞は、この公演で学んできたことが凝縮された作品です。
- 配布する公演のプログラム資料には、写真を多数掲載、本公演での印象的な場面を書き込む欄を設けるなど、それぞれにお気に入りを見つけてもらえるような構成にします。

児童生徒とのふれあい

※以下内容が当初予定していたかたちですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策等を踏まえて各学校と相談しながら内容を調整させていただきたく存じます。

- 開場時間・体験の最中には、ステージ上で出演者が解説を交えながら見本をみせるほか、フロアにいる児童・生徒の間に入り、直接指導を行います。
- ワークショップ同様、質疑応答時間を設けるなど、ご要望に応じて事後学習の機会を設けることも可能です。また、学校新聞などの取材やインタビュー、撮影にも応じます。